

ピーポポ

救急だより

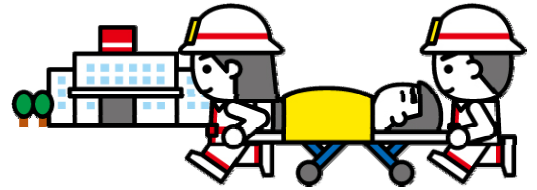


編集・発行 さつま町消防本部

〒895-1816 さつま町時吉 366 Tel 52-0119 Fax 53-0119
E-mail shobo@satsuma-net.jp
web http://www.satsuma-net.jp 発行 平成 20 年 9 月

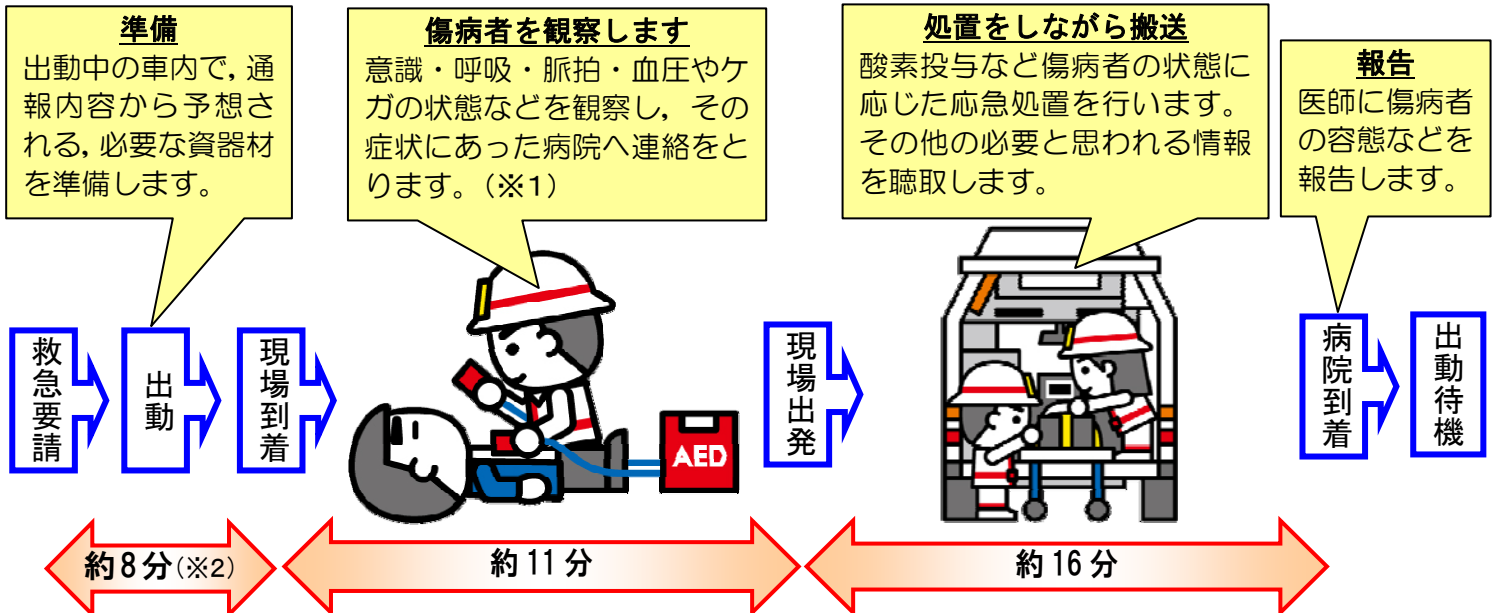
何してる？

救急隊の仕事



わたしたち救急隊は、下記のような流れに沿って活動しています。特に現場では、傷病者の容態を把握し、その症状にあった病院へ連絡をとってから搬送を開始します。そのためには、さまざまな資器材を使って観察を行い、自覚症状などを聴取する必要があります。このように適切な病院搬送を行うためには、ある程度の時間が必要となりますので、ご理解をお願いいたします。

一般的な救急活動の流れ



※1 傷病者の状態などから、希望する病院への搬送ができない場合もあります。

※2 所要時間は、平成 19 年の救急出動の平均時間です。(※搬送時間の 16 分は町内・町外搬送を含む。)

心肺停止の傷病者に行う高度救命処置

従来、医師でなければできなかった「気管挿管」や「薬剤投与」といった高度救命処置が、資格を持った救急救命士によって、医師の指示の下、現場でいち早く実施できるようになりました。



気管挿管

口から気管に直接チューブを挿入し、より確実に人工呼吸ができるようになります。窒息や、コンビチューブなどの従来の器具では気道が十分確保できない場合などで実施します。 **※有資格者 6 名**



薬剤投与

アドレナリンという強心薬を使います。使用には厳格な規定があり、すべての傷病者に使用できるわけではありません。また、写真のとおり点滴を通じての投与に限定されています。 **※有資格者 4 名**

これらの処置や心臓への電気ショックを行う場合、サイレンを鳴らして搬送中であっても、『安全のために』救急車を一時停止させることがあります。ご理解・ご協力をお願いいたします。



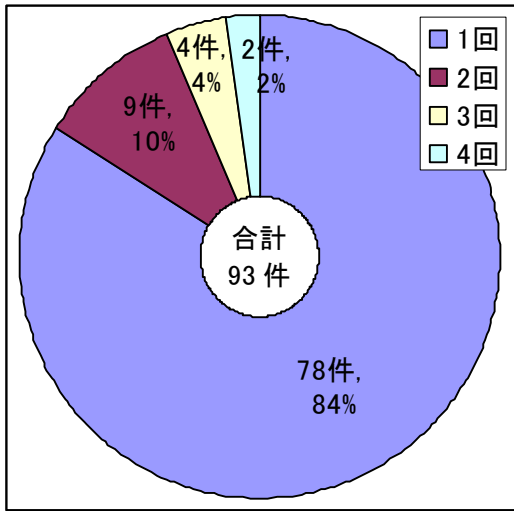
お知らせします! さつま町の救急の実態

平成 19 年のさつま町の救急状況は、999 件に出場し、978 名の方を病院へ搬送しています。その中で、全国的に大きな問題となっている、複数回の病院への受入連絡（いわゆる「たらい回し」）と、軽症者の搬送状況について、さつま町の現状をお知らせします。

◎重症者の受入紹介状況

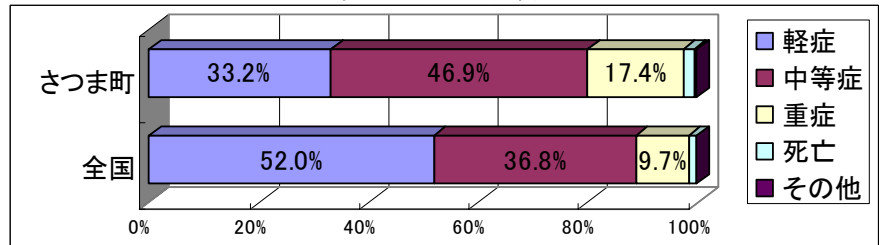
全国的に問題となった産科救急のたらい回しは、平成 19 年はさつま町では 1 件も発生していません。また、重症者（※転院搬送を除く）の複数回の病院への受入連絡は下のグラフのとおりですが、84%は 1 回で完了しています。また、4 回の受入連絡をした件数は 2%ありますが、全国平均の 3.9%の約半分となっています。

重症者の受入紹介回数



※回数は同一病院への複数回の連絡を含む

軽症者の搬送割合比較



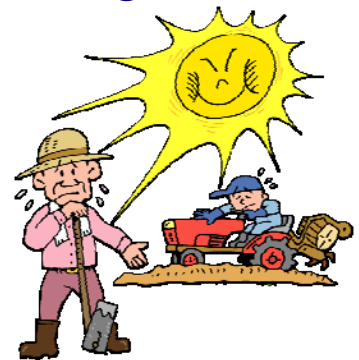
◎軽症者の搬送状況

入院を必要としない軽症者の搬送割合は、全国の 52%に対し、さつま町は 33.2%となっています。ただ最近では、緊急性のない安易な救急要請も増えてきています。緊急性のないケガや病気などの場合は、自家用車やタクシーを利用するなど、救急車の適正な利用について、ご理解とご協力をお願いいたします。

まだまだ暑い! 熱中症にご注意!

暦の上では秋とはいえ、まだまだ暑い日が続いており、引き続き熱中症への注意が必要です。さつま町では今年 11 名の方を熱中症で搬送しており、そのうちの 8 名が 10 代と 60 歳以上の傷病者です。（※8 月 17 日現在、疑い含む）

これから運動会など屋外で運動する機会も増えてきますので、こまめに休憩し水分を補給するなどして、熱中症予防に十分ご注意ください。



熱中症の手当の基本

休息	安静を保てる涼しい場所へ運ぶ。衣服を緩める、必要に応じて脱がせ、体を冷却しやすい状態にする。
冷却	涼しい場所で休ませる。必要に応じて、脇の下や首筋・太ももの付け根(太い血管があるところ)を冷やす。
水分補給	意識がはっきりしている場合に限る。意識障害がある場合には、医療機関での治療が必要となる。

ご家庭に住宅用火災警報器を設置しましょう!

現在、町内の全家庭に「住宅用火災警報器」の設置が義務付けられています。ご家族の大切な命を守るためにも「早めの設置」をお願いいたします。（設置率 20%：平成 20 年 8 月 17 日現在推計）